神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	人文科学概論
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	1年
担当教官名	名生修子
修得単位数	2単位
年間授業時数	30時間
授業の方法	講義及び実習
科目の概要 (授業科目の内容)	「すべてのものはつながっている」をモットーに、季節感を踏まえながら、自然界の万物を全体的に捉える東洋医学を学ぶ者としてのコミュニケーションの根幹となる教養を深めます。
到達目標	Let's gain insight into Oriental medicine.を目標に、技術のみならず人物面でも患者さんに信頼される主治医になるために、豊かな心の目を養い、深い教養と人間力を身につける。

授業計画

前期計　（　15　週　）	前期計　15時間
オリエンテーション1　人文科学概論概要～学習してもらいたいこと	1
オリエンテーション2　あはき師という仕事	2
コミュニケーションの実践～正しい日本語を使い、聴覚を鍛えよう	1
あはき師の先覚達Ⅰ	2
接遇及び医療面接	5
英語での接遇	1
モグサ・ヨモギを知るⅠ	1
季節を感じてみよう	1
テスト返却及び振り返り	1

後期計　（　15　週　）	後期計 15時間
あはき師の先覚達Ⅱ	1
貝原益軒著『養生訓』を読む	2
モグサ・ヨモギを知るⅡ	4
時事問題に触れる	1
東洋医学と古典文学Ⅰ	2
伝統芸能の中の障害者たち	2
世界で活躍する東洋医学	2
テスト返却	1

実務経験の有無 その活かし方	無
成績評価の方法	筆記試験（前期・後期）、授業中の実習活動に対する取り組み姿勢、小テスト、作品等を総合的に判断して評価します。
履修上の留意点	毎回の授業における実習活動への積極的参加と年間2回以上の創作作品の提出を求めます。
自己学習の進め方	常にどんなことにも興味を持ち「繋がる」という視点から物事を捉える練習をしてください。
使用教科書	無し
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	社会科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	村上初枝	
修得単位数	２単位	
年間授業時数	３０時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	社会福祉・社会保障の理念・歴史・制度を学び、社会の動向を把握していきましょう。	
到達目標	社会保障制度が生活をどのように支え、人権を保障しているのかを考えていきます。	
授業計画	前期計　（ 17週 ）	前期計 17時間
	前期内容	
	①授業内容と自己紹介	1
	②生活と福祉（少子高齢社会と人の一生と社会福祉）	2
	③社会福祉の理念（日本国憲法と社会福祉）	1
	④社会福祉六法	6
	⑤５つの社会保険制度	5
	⑥前期まとめ	1
	⑦前期期末試験返却	1
	後期計　（ 13週 ）	後期計 13時間
	後期内容	
	⑧公衆衛生と感染症	2
	⑨東アジアの社会保障制度	2
	⑩北欧・アメリカの社会保障制度	3
	⑪医療の歴史（西洋医学と東洋医学）	2
	⑫障碍者権利条約・障害福祉施策	2
	⑬社会保障制度の動向	1
	⑭後期レポート返却	1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期は、期末試験のみで、中間試験はありません。 後期は、期末レポートのみで評価します。	
履修上の留意点	社会保障制度は複雑なので、遠慮なく疑問などは聞いてください。	
自己学習の進め方	ニュース等を参考にしながら現代社会をみていきましょう。	
使用教科書	使用しません	
参考書/参考資料	社会福祉基礎（実教出版）　高等学校教科書（公共） 必要時は、プリントを配布します。	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	自然科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	新井敏夫	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	1.自然科学の考え方について考察し、科学的な考え方についての理解を深めます。 2.地球の成り立ちと歴史について理解を深めます。 3.生物の分類と進化について理解を深めます。 4.元素の分布や性質について理解を深めます。 5.音の性質や種類について理解を深めます。 6.身近なものに共通して見られる要素を探し、科学的に捉えます。	
到達目標	理療教科における学習に必要な自然科学の基礎的な概念、原理、法則等を理解して説明または正誤の判定ができること。	
授業計画	前期計　（　15　週　）	前期計　15時間
	前期内容 １．授業の概要説明 ２．地球の誕生と歴史 （１）太陽系誕生 （２）地球の成り立ち （３）地質時代区分と地球環境の変遷 ３．生物の進化 （１）生物の分類と系統 （２）生物の進化 (3) 生物の繁栄と絶滅 前期のまとめ 前期末試験講評	1 6 6 1 1
	後期計　（　15　週　）	後期計 15時間
	後期内容 4. 元素について （１）元素の種類 （２原子の構造 (3) 元素の分布 5.音について (1) 音の性質 (2) 音の種類 (3) 様々な音（機械音、電子音、鳴き声など） 後期のまとめ 後期末試験講評 6.身近なものに共通する要素 7の例	6 6 1 1 1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期の2回の定期試験を実施し、その平均点を年間評価とします。（小数点以下は切り捨て）	
履修上の留意点	中間期評価は実施しません。	

神戸センター

自己学習の進め方	講義は事前に配布する資料を用いて行います。資料をよく読み、講義内容を把握して講義に望んでください。講義後は復習し、内容の理解に努めてください。また、日常の生活において、関係する科目の内容とのつながりや広がりも考えられるよう心がけてください。
使用教科書	なし。プリントを配布します。
参考書/参考資料	必要に応じて模型などの資料を持ち込みます。

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	保健体育	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	細川健一郎	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	３０時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	運動・スポーツにかかわる基本的な知識と技術について学びます。 体力測定を通して身体の状況を客観的にとらえることについて学びます。 スポーツ傷害とテーピングの基本的な知識と技術について学びます。	
到達目標	１．運動・スポーツを生涯にわたって継続していく重要性を理解して、実践することができる。 ２．運動・スポーツ実践の基となる自身の体力の現状を客観的に把握できる。 ３．スポーツ傷害とテーピングの基礎を理解する。	
授業計画	前期計　（１５週）	前期計15時間
	１．オリエンテーション	1
	２．体づくり運動	3
	３．陸上競技	3
	４．球技	2
	５．レクリエーションゲーム	2
	６．体力測定	2
	７．体育理論	1
	８．保健理論	1
	後期計　（１５週）	後期計15時間
	１．体づくり運動	5
	２．球技	5
	３．スポーツ傷害とテーピング	3
	４．体育理論	1
	５．保健理論	1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします。（小数点第一位は切り捨て）	
履修上の留意点	中間試験は実施しません。天候により使用する体育施設を変更することがあります。	
自己学習の進め方	既習の内容は、余暇活動での活用や自己学習を含めて振り返り学習してください。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	全国障害者スポーツ大会競技規則集及び解説集	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	解剖学Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	１年	
担当教官名	池田　正道	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	人体の構成、骨格系、筋系、神経系の位置・構造・機能について学びます。	
到達目標	各器官の位置・構造・機能について、その概要を説明できるようになる。	
授業計画	前期計　（　15　週　）	前期計　60時間
	１．人体の構成	
	(1)細胞	4
	(2)組織	4
	(3)人体の区分と方向	4
	2.骨格系及び関節	
	(1)脊中・胸郭	12
	(2)上肢	12
	(3)下肢	12
	(4)頭蓋	12
	後期計　（　15　週　）	後期計 60時間
	3.筋系及び局所解剖	
	(1)体幹	8
	(2)上肢	8
	(3)下肢	8
	(4)頭頸部	6
	4.神経系	
	(1)神経系の構成	2
	(2)中枢神経系	14
	(3)末梢神経系	14
実務経験の有無 その活かし方	有　あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	病院での実務経験を活かし、解剖学の理解が今後の学習にとっての基礎であり、重要であることが意識できるよう、関連する疾患にも触れながら説明します。	
成績評価の方法	前期・後期とも、中間期と期末に試験を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価とします。学年末評価は、前期と後期の評価の平均点（小数点以下は切り捨て）とします。	
履修上の留意点	模型に積極的に触れ、教科書に記載されている内容を立体的にイメージできるようにしてください。	
自己学習の進め方	授業後は必ず復習を行い、配布された練習問題を解くことで、自身の記憶度や理解度を確認してください。	
使用教科書	人体の構造と機能　解剖学（第２版）　盲学校理療教科用図書編纂委員会編	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	解剖学Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	１年	
担当教官名	橋本拓也	
修得単位数	３単位	
年間授業時数	９０時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系・感覚器系の位置・構造・機能について学びます。	
到達目標	各臓器の位置・構造・機能について、その概要を説明できるようになる。	
授業計画	前期計　（　15　週　）	前期計　45時間
	１．消化器系 口腔、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓 ２．呼吸器系 気道、肺 ３．循環器系 総論、心臓、動静脈	20 10 15
	後期計　（　15　週　）	後期計 45時間
	３．循環器系 リンパ系、関係器官 ４．泌尿器系 腎臓、膀胱、尿路 ５．生殖器系 男性生殖器、女性生殖器 ６．内分泌系 各内分泌器官 ７．感覚器系 視覚器、聴覚平衡器、味覚器、嗅覚器、皮膚	10 8 8 7 12
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期・後期とも、中間期と期末に試験を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価とします。学年末評価は、前期と後期の評価の平均点（小数点以下は切り捨て）とします。	
履修上の留意点	模型に積極的に触れ、教科書に記載されている内容を立体的にイメージできるようにしてください。 授業で扱う臓器の順番は、変更する場合があります。その場合は、変更することを事前に連絡します。	
自己学習の進め方	授業後は必ず復習を行い、配布された練習問題を解くことで、自身の記憶度や理解度を確認してください。	
使用教科書	人体の構造と機能　解剖学（第２版）　盲学校理療教科用図書編纂委員会編	
参考書/参考資料		

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	生理学Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	佐藤　智紀	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	この科目では人体の正常な機能について学びます。生体を構成する細胞の働きや、循環、呼吸、消化吸収、代謝、体温、排泄の仕組みについて理解し、医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となるようにします。また、得た知識を施術に生かせるように学びます。	
到達目標	授業計画に上げてある各項目について、その人体内での役割・働き・原理について説明できるようにすることが目標です。	
授業計画	前期計　（　15週　）	前期計　30時間
	１．オリエンテーション	1
	２．生理学の基礎	5
	３．循環	10
	４．呼吸	7
	５．国試対策（演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む）	6
	６．中間試験	1
	７．期末試験	
	後期計　（　15週　）	後期計 30時間
	８．消化と吸収	6
	９．代謝	6
	１０．体温	5
	１１．排泄	6
	１２．国試対策（演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む）	6
	１３．中間試験	1
	１４．期末試験	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、各学期末に行われる期末試験（筆記試験）の平均点（小数点以下は切り捨て）を学年末評価とします。形成的評価として中間試験を実施しますが、評価には含めません。	
履修上の留意点	解剖学の授業と関連がでてきます。他科目の学習内容も意識して自学自習してください。 また医学知識の基礎となる科目ですので、しっかりと理解して暗記できるよう、不明点などがあればその場で解決するように意識してください。	
自己学習の進め方	1. 教科書を精読して、内容の理解に努めて下さい。 2. 他科目との関連性を意識して学習してください。	
使用教科書	人体の構造と機能　生理学第３版 医歯薬出版	
参考書/参考資料	授業で必要に応じて配布または紹介します。	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	医療概論（社会保障制度および職業倫理を含む）	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	１年	
担当教官名	橋本拓也	
修得単位数	２単位	
年間授業時数	３０時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	社会保障制度ならびに医療制度および職業倫理ついての基礎的知識を学びます。	
到達目標	１．社会保障制度について説明できる。 ２．医療制度について説明できる。 ３．生命倫理および職業倫理について説明できる。	
授業計画	前期計　（　15　週　）	前期計　15時間
	１．オリエンテーション ２．医学と医療 （１）現代の医学と医療 （２）社会保障制度 （３）現代の医学と医療の課題	1 2 8 4
	後期計　（　15　週　）	後期計 15時間
	３．生命倫理 （１）医の倫理(職業倫理) （２）ターミナルケア （３）自然死、尊厳死、安楽死 （４）臓器移植と脳死 （５）体外受精・人工妊娠中絶・胎児診断	 7 2 2 2 2
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、各学期末に行われる期末試験（筆記試験）の平均点（小数点以下は切り捨て）を学年末評価とします。他に中間試験を各学期内に1回行いますが、これは形成的評価として学年末評価には含めません。	
履修上の留意点	社会保障制度および職業倫理に関する指導は１単位相当とします。	
自己学習の進め方	常日頃社会保障制度や医療制度に関心をもち関連する情報に触れるよう心がけましょう。	
使用教科書	医療と社会　改訂８版　岡山ライトハウス	
参考書/参考資料	なし	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学概論Ⅰ
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	１年
担当教官名	藤井　徹
修得単位数	2単位
年間授業時数	60時間
授業の方法	講義
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な東洋医学の基本的概念、東洋医学的な形態感と機能感、病因病機、診断法、診察法ならびに治療法の基礎的な事項を学びます。
到達目標	①東洋医学の基本的な特色を述べることができる。 ②気血津液・臓腑の基本的概念と生理機能について説明することができる。

授業計画		
	前期計　（　１５　週　）	前期計　30時間
	１．オリエンテーション	1
	２．東洋医学の基礎理論	20
	(1) 東洋医学の意義と特徴　(2) 陰陽五行論	
	３．東洋医学の生理観	4
	(1) 東洋医学における人体の構成	
	4.復習	5
	後期計　（　１５　週　）	後期計 30時間
	5. 東洋医学の生理観	25
	(1) 東洋医学における人体の構成	
	(2) 気・血・津液・精・神の生理	
	(3) 臓象論	
	(4) 経絡と経穴	
	6.復習	5

実務経験の有無 その活かし方	無
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年２回の総括的評価の平均点もって年間評価とします（小数点以下は切り捨て）。なお、中間期にはそれぞれの到達度を確認するための形成的評価を実施します。
履修上の留意点	東洋医学概論の難解な言葉や漢字については、事前に読みを調べることにより学習が円滑に進みます。
自己学習の進め方	講義は教科書を基にまた必要ならば資料を作成しそれを用いて進めます。そのため講義後は必ず教科書等を精読して復習し、内容の理解につとめてください。理解できないところがあれば、教科書を調べ、それでも解決できなければ、次の講義までに担当教官に質問し確認してください。
使用教科書	基礎理療学Ⅰ（東洋医学概論）改訂第8版
参考書/参考資料	東洋療法学校協会編　新版東洋医学概論

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	経絡経穴概論Ⅰ
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	1年
担当教官名	中西　初男
修得単位数	3単位
年間授業時数	90時間
授業の方法	講義
科目の概要 (授業科目の内容)	経絡経穴の基礎と知識、十四経脈の流注、それに所属する経穴の名称・部位・取穴・解剖及び要穴について学びます。
到達目標	1. 経絡経穴を説明できる。 2. 十二経の名称が順番通り言える。 3. 各経絡の流注と所属する経穴名が順番通り言える。 4. 十四経に所属する各経穴の部位・取穴・解剖が言える。 5. 各経絡の要穴（五要穴・五行穴・四総穴など）が言える。

授業計画

前期計　（　15　週　）	前期計　45時間
オリエンテーション	1
１．経絡経穴の誕生	1
２．臓腑の概要及び経絡との関係	1
３．経穴の取り方（骨度法・同身寸法など）	2
４．経絡経穴の理解に必要な用語	1
５．督脈	5
６．任脈	5
７．肺経	3
８．大腸経	5
９．胃経	10
10．脾経	6
前期のまとめ	5

後期計　（　15　週　）	後期計 45時間
７．心経	3
８．小腸経	4
９．膀胱経	12
１０．腎経	5
１１．心包経	3
１２．三焦経	4
１３．胆経	5
１４．肝経	4
後期のまとめ	5

実務経験の有無 その活かし方	有　あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院・治療院での施術経験を生かして、リスク管理のもと安全で効果的な、患者さんに合わせた施術ができるよう指導します。
成績評価の方法	総括的評価を前期・後期の中間・期末と年４回実施します。前期・後期の評価の平均点を年間評価とします。（小数点以下切り捨て）
履修上の留意点	定期的な取穴練習を実施します。実技と同様に衛生管理やリスク管理を意識して授業に臨んでください。
自己学習の進め方	試験だけでなく、経穴の暗唱をしてもらいます。ただ覚えるだけでなく解剖学で学ぶ筋肉や神経なども併せて学習してください。経絡の流れ、経穴の場所を覚えるため、または取穴するために必要な知識となりますので、他科目と並行して自己学習してください。
使用教科書	新版経絡経穴概論　日本理療科教員連盟　社団法人東洋療法学校協会編
参考書/参考資料	『経絡経穴概論　改訂版』　全国盲学校長会編　大阪市立盲学校理療科研究部著

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あマ指基礎実習Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	１年	
担当教官名	橋本拓也	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	あん摩の沿革、施術者としての注意点、基本手技、全身あん摩（側臥位・仰臥位・腹臥位）などについて学習します。	
到達目標	(1) 身だしなみに気をつけて参加することができる。 (2) あん摩の基本手技を用いて適切に施術することができる。 (3) 姿勢等を意識し適切な加圧で施術することができる。 (4) 施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。 (5) 施術に必要な触察と位置確認ができる。	
授業計画	前期計　（　15　週　）	前期計　60時間
	１．オリエンテーション 施術者としての注意事項　あん摩の沿革	2
	２．施術部位の名称　基本手技	10
	３．側臥位のあん摩	48
	後期計　（　15　週　）	後期計 60時間
	４．側臥位のあん摩	20
	５．仰臥位のあん摩	15
	６．伏臥位のあん摩	25
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年２回の総括的評価の平均点もって年間評価とします（小数点以下は切り捨て）。なお、中間期にはそれぞれの到達度を確認するための形成的評価を実施します。	
履修上の留意点	１．リスク管理・衛生管理に充分配慮する。特に母指圧の力度は無理とならないよう心がける。 ２．骨・関節・筋などは解剖学と関連するので、充分学習する。	
自己学習の進め方	１．日ごろから母指の鍛錬を行う。 ２．予習は事前に施術部位の術式を暗記しておく。	
使用教科書	手技療法の基礎と臨床(改訂第5版)　オリエンス研究会　岡山ライトハウス	
参考書/参考資料	「理療基礎実習」日本ライトハウス　刊　　「あん摩基礎実習マニュアル」	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あマ指基礎実習Ⅱ
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	1年
担当教官名	藤井　徹
修得単位数	2単位
年間授業時数	60時間
授業の方法	実技
科目の概要 (授業科目の内容)	マッサージの基礎的な技術や身体各部に対する術式を学び、施術の流れを理解するとともに施術者としての能力と態度を養います。
到達目標	(1) 身だしなみに気をつけて参加することができる。 (2) マッサージの基本手技を用いて適切に施術することができる。 (3) 姿勢等を意識し適切な加圧で施術することができる。 (4) 施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。 (5) 施術に必要な触察と位置確認ができる。

授業計画		
	前期計　（　15　週　）	前期計　30時間
	１．施術への導入	2
	(1) 施術者としての心構え (2) マッサージの沿革および意義と役割 (3) 施術室の管理および実習用具の取扱い (4) 衛生管理（手指の消毒を含む） (5) リスク管理 (6) 作用機序の概要	
	２．マッサージの基礎	8
	(1) 人体の区分 (2) マッサージの基本手技（6種類）	
	３．身体各部へのマッサージ	
	(1) 上肢（手部、前腕、上腕）	10
	(2) 下肢（足部、下腿、大腿）	10
	後期計　（　15　週　）	後期計 30時間
	３．身体各部へのマッサージ	
	(3) 体幹（頭頸部、胸腹部、背部）	15
	(4) 上肢の各関節（手関節、肘関節、肩関節）	8
	(5) 下肢の各関節（足関節、膝関節、股関節）	7

実務経験の有無 その活かし方	無
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年２回の総括的評価の平均点もって年間評価とします。（小数点以下は切り捨て）なお、中間期には形成的評価を実施します。各評価は、試験に実習態度等を加味したものとします。
履修上の留意点	自身の健康管理に留意し、身体や白衣を清潔に保ち衛生管理に留意しましょう。クラスメートを患者想定で進めますので、お互いに敬意を払う態度で取り組みましょう。
自己学習の進め方	実技授業は復習が大切です。この授業では身体各部へのマッサージを練習しますので、授業終了後は術式等復習しておいてください。 また、基本手技については手が思うように動くまで反復練習することをお勧めします。
使用教科書	なし
参考書/参考資料	必要に応じて配布します

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あマ指基礎実習Ⅲ	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	１年	
担当教官名	橋本拓也	
修得単位数	２単位	
年間授業時数	６０時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	指圧の基礎技術を実習形式により、体験的に学びます。臨床実習の前段階として、部位別の施術法を中心に学びます。	
到達目標	(1) 身だしなみに気をつけて参加することができる。 (2) 指圧の基本手技を用いて適切に施術することができる。 (3) 適切な姿勢等を意識し適切な加圧で施術することができる。 (4) 施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。 (5) 施術に必要な触察と位置確認ができる。	
授業計画	前期計　（　15　週　）	前期計　30時間
	１．施術への導入 ①指圧の意義と役割 ②施術者としての心構え ③施術室の管理 ④施術用具の取扱い ⑤衛生管理（手指の消毒を含む） ⑥リスク管理	5
	２．指圧施術上の基本的事項 ①押圧操作 ②押圧の三原則 ③母指圧の型 ④按摩手技の応用	25
	後期計　（　15　週　）	後期計 30時間
	３．指圧の基本手技 ①押圧操作法 ②運動操作法	10
	４．腹臥位の指圧 ①背部 ②殿部 ③下肢 ④後頭部・後頸部・肩上部	10
	５．背臥位の指圧 ①腹部 ②下肢 ③頸部	10
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年２回の総括的評価の平均点もって年間評価とします（小数点以下は切り捨て）。なお、中間期にはそれぞれの到達度を確認するための形成的評価を実施します。	
履修上の留意点	１．リスク管理・衛生管理に充分配慮する。特に母指圧の力度は無理とならないよう心がける。 ２．骨・関節・筋などは解剖学と関連するので、充分学習する。	
自己学習の進め方	１．日ごろから母指の鍛錬を行う。 ２．予習は事前に施術部位の術式を暗記しておく。	
使用教科書	手技療法の基礎と臨床(改訂第5版)　オリエンス研究会　岡山ライトハウス	
参考書/参考資料	なし	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はき基礎実習Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	１年	
担当教官名	池田正道	
修得単位数	３単位	
年間授業時数	９０時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	はり施術に関する基礎的な知識と技術について学びます。	
到達目標	(1) 身だしなみに気をつけて参加することができる。 (2) 刺鍼の基本操作を正確かつ安全に行うことができる。 (3) 押手を安定させ直刺ができる。 (4) 一定時間内に身体各部位（経穴）への刺鍼ができる。 (5) 手順(動作)に無駄がなく、適切に器具を取り扱うことができる。 (6) 鍼施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。	
授業計画	前期計　（　15　週　）	前期計　45時間
	１．オリエンテーション	1
	２．施術への導入 （１）鍼施術の意義と役割　（２）施術者としての心構え （３）施術室の管理　（４）施術用具の基礎知識とその取り扱い （５）衛生管理（手指の消毒を含む）（６）リスク管理（感染予防対策を含む）	2
	３．施鍼の基礎 （１）消毒法の実際　（２）前揉捏と後揉捏　（３）押手と刺し手 （４）管鍼法と燃鍼法　（５）刺入法と抜針法	20（3．4含む）
	４．基本手技 ５．身体各部への刺鍼 ６．主な経穴への刺鍼 ※５．６．は自身、クラスメイトの体へ刺鍼の順	20（5．6含む）
	７．中間試験（形成的評価）	2
	後期計　（　15　週　）	後期計 45時間
	３．施鍼の基礎 （１）消毒法の実際　（２）前揉捏と後揉捏　（３）押手と刺し手 （４）管鍼法と燃鍼法　（５）刺入法と抜針法 ４．基本手技 ※３．４．の内容を随時確認しながら実施 ５．身体各部への刺鍼 ６．主な経穴への刺鍼 ※５．６．はクラスメイトを相手に実施	43
	７．中間試験（形成的評価）	2
実務経験の有無 その活かし方	有　あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	病院勤務の経験を活かし、臨床現場での施術の様子などを話すことで、基礎練習の中でも実際の現場の雰囲気を感じとれ、練習の動機付けとなれるようにします。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします。 （小数点第一位は切り捨て）	
履修上の留意点	６月、１１月に形成評価のため、２回中間試験を行います。	
自己学習の進め方	事故防止の観点から原則として鍼基礎Ⅰの授業以外の時間には鍼は使用できません。 放課後に練習したい場合は教官にご相談ください。	
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 改訂第５版 オリエンス研究会	
参考書/参考資料	人体の構造と機能解剖学（第２版第１９刷）、新版 経絡経穴概論	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はき基礎実習Ⅱ
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	1年
担当教官名	米田 裕和
修得単位数	2単位
年間授業時数	60時間
授業の方法	実技
科目の概要 (授業科目の内容)	灸施術に必要な艾の鑑別、保存などや、施灸の種類、施灸の方法、施灸の実際までを経験し、修練を行います。個々の特性による課題についても、克服に向け個別の指導を行います。
到達目標	(1) 身だしなみに気をつけて参加することができる。 (2) 施灸の基本操作を正確かつ安全に行うことができる。 (3) 決められた大きさと形で艾炷を作成できる。 (4) 一定時間内に定められた部位（経穴）への施灸ができる。 (5) 手順(動作)に無駄がなく、適切に器具を取り扱うことができる。 (6) 灸施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。

授業計画

前期計　（　15週　）	前期計　30時間
1. オリエンテーション	2
2. 艾	3
艾の種類・品質と鑑別と保存、線香	
3. 施灸の種類	4
有痕灸各種、無痕灸各種	
4. 施灸の実際	20
無痕灸	
知熱灸・各種温灸・各種隔物灸	
手順・線香の取り扱いと点火、燃焼後の灰処理	
施灸の練習・工夫	
5. 評価のフィードバック	1

後期計　（　15週　）	後期計 30時間
6. 有痕灸	10
艾炷の形と大きさ・艾炷のひねり方	
線香の取扱いと点火・燃焼後の灰処理	
施灸の工夫・施灸の練習	
7. 身体各部の施灸	10
灸の大きさ、壮数について、身体斜面への施灸・四肢への施灸・体幹への施灸	
8. 施灸時の接遇	9
声掛けを含むベッドサイドでの接遇について	
※視覚障害者の施灸に関してより高い水準で安全性と実効性を念頭におき創意・工夫し、利用者個々の特性に合った補助具などを使用するなどの配慮に留意する。	
9. 評価のフィードバック	1

実務経験の有無 その活かし方	無

神戸センター

成績評価の方法	理療教育実施細則24に基づき、各学期末に行われる期末試験（筆記試験）の平均点（小数点以下、切り捨て）を学年末評価とします。他に中間試験を各学期内に1回行いますが、これは形成的評価として学年末評価には含めません。
履修上の留意点	やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は理療教育実施細則の規定より欠席扱いとなりますが、30分未満でも積極的な授業参加を期待します。理療教育実施細則の規定により再評価試験はありません。 身体や白衣を清潔に保ち衛生管理に留意します。施術に対してお互いに敬意を払う態度で取り組みます。火傷のリスクが高いので火気の取り扱いには十分に留意します。
自己学習の進め方	この実習で身につける知識・技術には、解剖学や経絡経穴概論で履修する学習内容も含まれており、関連する事項については授業中に解説を行い、次の実習までに復習して下さい。 授業時間外において、各自が人体施灸の練習する場合は、教官立ち合いの元で行うようにし、実習中に説明した注意事項を十分に守り、実習で習得した範囲内で練習に励んで下さい。
使用教科書	鍼灸実技　基礎と臨床　改定第5版、オリエンス研究会編/岡眞太郎・志水克典、岡山ライトハウス、2021年
参考書/参考資料	はりきゅう基礎実習Ⅱ　実習指導マニュアル

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	人文科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	名生修子	
修得単位数	2	
年間授業時数	30	
授業の方法	講義及び実習	
科目の概要 (授業科目の内容)	「すべてのものはつながっている」をモットーに、季節感を踏まえながら、自然界の万物を全体的に捉える東洋医学を学ぶ者としてのコミュニケーションの根幹となる教養を深めます。	
到達目標	技術のみならず人物面でも患者さんに信頼される主治医になるために、様々な話題に対応できるよう豊かな心の目を養い、より深い教養とフレキシビリティーのある人間力を身につけること。	
授業計画	前期計　（　15週　）	前期計　15時間
	人文科学概論概要　あはき師という仕事	1
	世界で活躍する東洋医学	2
	接遇及び医療面接	2
	モグサ・ヨモギを知るⅠ	2
	あはき師の先覚達Ⅰ	2
	伝統芸能の中の障害者たち	3
	「聞診」のために～嗅覚を鍛えよう	1
	季節を感じる	1
	テスト返却及び振り返り	1
	後期計　（　15　週　）	後期計 15時間
	季節を感じる	2
	東洋医学と古典文学Ⅱ	3
	あはき師の先覚達　Ⅱ	1
	身近な漢方に触れる	4
	モグサ・ヨモギを知るⅡ	2
	時事問題に触れる	1
	聴覚を鍛えよう	1
	テスト返却	1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	筆記試験（前期・後期）、授業中の実習活動に対する取り組み姿勢、小テスト、作品等を総合的に判断して評価します。	
履修上の留意点	毎回の授業における実習活動への積極的参加と年間2回以上の創作作品の提出を求めます。	
自己学習の進め方	常にどんなことにも興味を持ち「繋がる」という視点から物事を捉える練習をしてください。	
使用教科書	無し	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	社会科学概論
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程
対象クラス	２年
担当教官名	村上初枝
修得単位数	２単位
年間授業時数	３０時間
授業の方法	講義
科目の概要 (授業科目の内容)	いま世界は、深刻な人類的課題が山積しています。 戦後８０年の経済・歴史から現代と未来をみていきましょう。
到達目標	日本・世界にどのような課題・問題があるのかを、歴史的経過を知り考えていきます。

授業計画

前期計　（ 15週 ）	前期計 15時間
前期内容	
①授業内容と自己紹介	1
②戦後80年の日本史（経済を含む）	9
③大日本帝国憲法と日本国憲法	3
④前期まとめ	1
⑤前期期末試験返却	1

後期計　（ 15週 ）	後期計 15時間
後期内容	
⑥法の役割（労働法・選挙制度など）	3
⑦環境問題と自然災害（気候危機・エネルギー・地震・火山）	5
⑧情報社会と金融	3
⑨社会保障制度の機能と動向	3
⑩後期期末レポート返却	1

実務経験の有無 その活かし方	無
成績評価の方法	前期は、期末試験のみで中間試験はありません。 後期は期末レポートのみで評価します。
履修上の留意点	質問・疑問は解決していきましょう。
自己学習の進め方	特にありません。
使用教科書	使用しません
参考書/参考資料	高等学校教科書（歴史総合、政治・経済、地理総合）

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	自然科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	新井敏夫	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	1.自然科学の考え方について考察し、科学的な考え方についての理解を深めます。 2.日常的によく使う単位に関して、その意味と役割について理解を深めます。 3.太陽系の天体について理解を深め、現在の宇宙観を考えます。 4.情報機器とデータベースについての理解を深め、「電子カルテ」の操作について習熟をはかります。	
到達目標	理療教科における学習に必要な自然科学の基礎的な概念、原理、法則等を理解して説明または正誤の判定ができること。	
授業計画	前期計　（　15　週　）	前期計　15時間
	前期内容 １．授業の概要説明	1
	２．単位について （１）様々なものの数え方 （２）単位の歴史 （３）基本単位の定義と組み立て	6
	３．太陽系の天体 （１）天体とは （２）太陽系の惑星 (3) 星が光るしくみ	6
	前期のまとめ	1
	前期末試験講評	1
	後期計　（　15　週　）	後期計 15時間
	後期内容 4. 情報機器について 情報機器の歴史と現在	2
	5.「電子カルテ」ソフトのしくみ データベース構造から見たカルテソフトの見方	1
	6. 「電子カルテ」の操作 (1) 入力と出力 (2) 操作時のトラブル解消法	9
	後期のまとめ	1
	後期末試験講評	1
	7.身近なものに共通する要素 形の例	1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期の2回の定期試験を実施し、その平均点を年間評価とします。（小数点以下は切り捨て）	
履修上の留意点	中間期評価は実施しません。	

神戸センター

自己学習の進め方	講義は事前に配布する資料を用いて行います。資料をよく読み、講義内容を把握して講義に望んでください。講義後は復習し、内容の理解に努めてください。また、日常の生活において、関係する科目の内容とのつながりや広がりも考えられるよう心がけてください。
使用教科書	なし。プリントを配布します。
参考書/参考資料	必要に応じて模型などの資料を持ち込みます。

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	保健体育	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	２年	
担当教官名	細川健一郎	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	３０時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	運動・スポーツにかかわる基本的な知識と技術について学びます。 体力測定を通して身体の状況を客観的にとらえることについて学びます。 スポーツ傷害とテーピングの基本的な知識と技術について学びます。	
到達目標	１．運動・スポーツを生涯にわたって継続していく重要性を理解して、実践することができる。 ２．運動・スポーツ実践の基となる自身の体力の現状を客観的に把握できる。 ３．スポーツ傷害とテーピングの基礎を理解する。	
授業計画	前期計　（１５週）	前期計15時間
	１．オリエンテーション	1
	２．体づくり運動	2
	３．陸上競技	3
	４．球技	2
	５．レクリエーションゲーム	3
	６．体力測定	2
	７．体育理論	1
	８．保健理論	1
	後期計　（１５週）	後期計15時間
	１．体づくり運動	2
	２．陸上競技	2
	３．レクリエーションゲーム	5
	４．スポーツ傷害とテーピング	4
	５．体育理論	1
	６．保健理論	1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします。（小数点第一位は切り捨て）	
履修上の留意点	中間試験は実施しません。天候により使用する体育施設を変更することがあります。	
自己学習の進め方	既習の内容は、余暇活動での活用や自己学習を含めて振り返り学習してください。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	全国障害者スポーツ大会競技規則集及び解説集	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	生理学Ⅱ
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	2年
担当教官名	米田 裕和
修得単位数	3単位
年間授業時数	90時間
授業の方法	講義
科目の概要 (授業科目の内容)	この科目では人体の正常な機能について学びます。内分泌、生殖成長と老化、神経、筋、運動、感覚および生体の防御機構の仕組みについて理解することは、医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、人の健康に携わる施術師にとって非常に重要な科目であります。
到達目標	学習した内容を施術に応用する能力と態度を養い、科学的根拠のある医療、サービスの提供を実現することを目標とします。

授業計画

前期計　（　15週　）	前期計　45時間
1. オリエンテーション	1
2. 内分泌	15
3. 生殖、成長と老化	5
4. 神経	20
5. 国家試験対策（演習問題の実施、模擬試験問題等の解説）	4
6. 中間試験	
7. 期末試験	

後期計　（　15週　）	後期計 45時間
8. 筋	5
9. 身体の運動	10
10. 感覚	15
11. 生体の防御機構	5
12. 国家試験対策（演習問題の実施、模擬試験問題等の解説）	10
13. 中間試験	
14. 期末試験	

実務経験の有無 その活かし方	無
成績評価の方法	理療教育実施細則24、神戸視力障害センター評価及び試験実施規定6に基づき、前期・後期の中間・期末に総括評価（筆記試験）を行い、平均点（小数点以下、切り捨て）を学年末評価とします。 なお、筆記試験の形式は四肢択一式及び記述式とします。

神戸センター

履修上の留意点	学年末成績が50点以上（59点未満）の場合のみ、理療教育実施細則の規定により補習を行った上で再評価試験を行います。 やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は理療教育実施細則の規定より欠席扱いとなりますが、30分未満でも積極的な授業参加を期待します。
自己学習の進め方	１．復習は、教科書の各単元の学習のためのキーワド、学習のねらい、復習のポイントを必ず確認してください。精読をして内容の理解に努めて下さい。知らない用語や理解できないところがあれば、辞書や教科書を調べ、それでも解決できなければ、次の講義までに担当教官に質問して解決してください。 ２．過去の国家試験問題を各単元が終了した後に必ず解いてください。学習の要点が分かり、講義への理解が深まります。
使用教科書	人体の構造と機能 生理学 第3版、盲学校理療教科用図書編纂委員会編/内田さえ他著、医歯薬出版、2021年
参考書/参考資料	特になし

神戸センター

令和7年度 授業計画書(シラバス)

科目名	病理学
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	２年
担当教官名	木村　秀伯
修得単位数	2単位
年間授業時数	60時間
授業の方法	講義
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な疾病の本態や各病変の概要について学びます。
到達目標	疾病の成り立ち・症状・経過・原因などについて説明ができる。

授業計画

前期計　（　１５　週　）	前期計　30時間
1．病理学の基礎	4
２．病因	10
３．細胞傷害と修復	8
４．循環障害 （充血、うっ血、虚血、出血）	8

後期計　（　１５　週　）	後期計 30時間
４．循環障害 （血栓症、塞栓症、梗塞、側副循環、浮腫、全身循環障害）	8
５．炎症	8
６．免疫異常	6
７．腫瘍	8

実務経験の有無 その活かし方	無
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、各学期の期末に試験（筆記試験）を実施する。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）とする。なお、中間期にはそれぞれの到達度を確認するための形成的評価を実施する。
履修上の留意点	講義は教科書を基に資料を作成し、それを用いて講義を進めます。提示した確認問題は必ず解くようにしておいて下さい。学習の要点が分かり、講義への理解が深まります。
自己学習の進め方	教科書や配付資料を熟読し内容の理解に努めてください。また履修済科目の解剖学や生理学等の内容についても振り返り知識の整理に努め、まとめのノート等を作成するように心掛けてください。
使用教科書	疾病の成り立ちと予防Ⅱ　病理学概論
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床医学総論	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	２年	
担当教官名	中西　初男	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な西洋医学における診察法（医療面接や身体診察）、臨床検査法、治療法の概要について学びます。	
到達目標	１.症状の病態生理を理解すると共に、その診察法・検査法について説明ができる。 ２.臨床検査法の理論・臨床的意義・適応について説明ができる。 ３.治療法について説明ができる。	
授業計画	前期計　（　１５　週　）	前期計　45時間
	１．診察法	
	（１）診察の概要	2
	（２）問診（医療面接）	2
	（３）視診	4
	（４）打診	10
	（５）聴診	4
	（６）触診	4
	（７）測定法	9
	（８）生命兆候（バイタルサイン）	10
	後期計　（　１５　週　）	後期計 45時間
	（９）神経系の診察	6
	（１０）運動機能検査	6
	２．臨床検査法	
	（１）一般検査	10
	（２）生化学検査	4
	（３）生理学的検査及び画像診断の概要	4
	３．治療法	
	（１）治療の意義と分類	2
	（２）薬物療法	2
	（３）食事療法	2
	（４）理学療法	2
	（５）その他の療法	2
	４．臨床心理	5
実務経験の有無 その活かし方	有　あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	病院・治療院での施術経験を生かして、リスク管理のもと安全で効果的な、患者さんに合わせた施術ができるよう指導します。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、各学期の中間期と期末に試験（筆記試験）を実施する。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）とする。	
履修上の留意点	講義は改定された新教科書に沿って授業を進めます。また、必要な資料は適宜提供いたします。提示した確認問題は必ず解くようにしておいて下さい。学習の要点が分かり、講義への理解が深まります。	
自己学習の進め方	教科書や配付資料を熟読し内容の理解に努めてください。また履修済科目の解剖学や生理学等の内容についても振り返り知識の整理に努め、まとめのノート等を作成するように心掛けてください。メディア等も利用して幅広い医学知識の収集を図りましょう。	
使用教科書	生活と疾病Ⅱ　臨床医学総論　第３版	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	理療臨床医学各論
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	2年
担当教官名	池田正道
修得単位数	3単位
年間授業時数	90時間
授業の方法	講義
科目の概要 (授業科目の内容)	各疾患の概念、病態生理、原因、症状、検査、治療、予後について学習する。
到達目標	各疾患の主な特徴を理解し、概念や原因、症状、検査、治療法等について簡潔に説明出来る。

授業計画

前期計　（　15週　）	前期計　45時間
１．オリエンテーション	1
２．運動器疾患 （関節疾患、骨代謝性疾患、骨腫瘍、筋・腱疾患、形態異常、脊椎疾患、外傷、スポーツ外傷・障害、その他の整形外科疾患）	44

後期計　（　15週　）	後期計 45時間
３．神経疾患 （脳血管疾患及び頭部外傷、感染性疾患、脳・脊髄疾患、基底核変性疾患、その他の変性疾患及び脱髄疾患、認知症、筋疾患、運動ニューロン疾患、末梢神経疾患、神経痛、機能性疾患）	28
４．精神・心身医学的疾患	8
５．麻酔科学	4
６．救急医学	3
７．小児科疾患	2

実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師
	病院での実務経験を活かし、特に遭遇することの多い疾患については経験談を交えながら重点的に解説します。	
成績評価の方法	前期の中間と期末、後期の中間と期末の平均点を前期と後期の評価とします（少数点第一位は切り捨て）。さらに、前期と後期の平均点を学期末の評価とします（少数点第一位は切り捨て）。	
履修上の留意点	１．各疾患の概念、病態生理、原因、症状、検査、治療、予後については、国家試験の出題頻度の高い疾患や主に理療臨床で遭遇することの多い疾患等に重点を置きながら解説します。 ２．適宜、解剖学や生理学、臨床医学総論等の関連科目に留意しながら指導をおこないます。 ３．総括的評価として、前期中間・期末、後期中間・期末の計4回試験を実施します。	
自己学習の進め方	解剖学や生理学といった人体の構造と機能に関する知識については、教科書等を用いて逐次復習し、授業で学習した知識のベースアップに努めてください。	
使用教科書	生活と疾病Ⅲ（臨床医学各論）上巻・中巻・下巻	
参考書/参考資料		

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学概論Ⅱ
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	2年
担当教官名	藤井　徹
修得単位数	3単位
年間授業時数	90時間
授業の方法	講義
科目の概要 (授業科目の内容)	理療師として必要な東洋医学の基礎、生理観、疾病観、診断法、治療法について学びます。
到達目標	東洋医学の基礎理論、生理観、疾病観、診断法について理解し、東洋医学的治療法についても説明できるようになる。さらに、これらを治療に応用できるようになる。

授業計画		
	前期計　（　15　週　）	前期計　45時間
	１．オリエンテーション	1
	２．東洋医学の基礎理論	10
	（1）東洋医学の意義と特徴　、（2）陰陽五行論	
	３．東洋医学の生理観	10
	（1）東洋医学における人体の構成　　（2）気・血・津液・精・神の生理	
	（3）臓象論　、（4）経絡と経穴	
	４．東洋医学の疾病観	24
	（1）病因論	
	（2）病理・病証論	
	①八綱病証	
	②気・血・津液・精の病理と病証	
	③臓腑の病理と病証	
	後期計　（　15　週　）	後期計 45時間
	４．東洋医学の疾病観	10
	④経絡病証	
	⑤経筋病証	
	⑥六経病証	
	５．診断論	20
	（1）四診法　、（2）証の立て方	
	６．治療論	15
	（1）はりきゅう両方、（2）手技療法、（3）その他	

実務経験の有無 その活かし方	無
成績評価の方法	総括的評価は前後期の中間・期末に年4回実施し、前後期の評価の平均点をもって年間評価とします。なお、成績は小数点第１位で切り捨てた整数とします。
履修上の留意点	はり師・きゅう師国家試験の出題基準を考慮した講義を行います。
自己学習の進め方	東洋医学概論の難解な言葉や漢字については、事前に読みを調べることにより学習がスムーズに進みます。 授業が終わったら必ずその内容を復習し、不明な箇所はそのままにせず相談するようにしてください。
使用教科書	基礎理療学Ⅰ（東洋医学概論）改訂第7版
参考書/参考資料	東洋療法学校協会編　新版東洋医学概論

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	経絡経穴概論Ⅱ
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	2年
担当教官名	佐藤智紀
修得単位数	2単位
年間授業時数	60時間
授業の方法	講義
科目の概要 (授業科目の内容)	経脈の流注、経穴及び奇穴の部位と取穴方法、要穴、解剖所見、組合せ穴、経絡及び経穴の現代医学的研究などについて学びます。
到達目標	1.同身寸法、骨度法を理解し説明できる。 2.経脈の走行・流注の概要を理解し、説明できる。 3.経穴及び奇穴の部位を理解し、取穴できる。 4.要穴を理解し説明できる。 5.経穴と解剖所見を結びつけ、施術に応用できる。 6.組み合わせ穴を用い、施術に応用できる。 7.経絡・経穴の現代的研究の概要を説明できる。

授業計画

前期計　（　15　週　）	前期計　30時間
1.経穴の取り方（骨度法・同身寸法など）	1
2.督脈	3
3.任脈	3
4.肺経	3
5.大腸経	4
6.胃経	5
7.脾経	4
8.心経	3
9.小腸経	4

後期計　（　15　週　）	後期計 30時間
10.膀胱経	6
11.腎経	3
12.心包経	3
13.三焦経	3
14.胆経	5
15.肝経	3
16.奇経	2
17.奇穴	3
18.組み合わせ穴	1
19.経絡・経穴の現代的研究	1

実務経験の有無 その活かし方	無

神戸センター

成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、各学期の期末に試験（筆記試験）を実施します。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）とします。なお、中間期にはそれぞれの到達度を確認するための形成的評価を実施します。
履修上の留意点	定期的な取穴練習を実施します。実技と同様に衛生管理やリスク管理を意識して授業に臨んでください。
自己学習の進め方	試験だけでなく、経穴の暗唱をしてもらいます。ただ覚えるだけでなく解剖学で学ぶ筋肉や神経なども併せて学習してください。経絡の流れ、経穴の場所を覚えるため、または取穴するために必要な知識となりますので、他科目と並行して自己学習してください。
使用教科書	新版経絡経穴概論　日本理療科教員連盟　社団法人東洋療法学校協会編
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あマ指応用実習Ⅰ　（臨床実習前試験等を含む）
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	2年
担当教官名	藤井　徹、中西　初男
修得単位数	4単位
年間授業時数	120時間
授業の方法	実技
科目の概要 (授業科目の内容)	１年次に習得した基礎的技術をさらに習熟させるとともに、疾患別に応じた問診・診察・治療法など、施術者として必要な応用的な施術に関する内容について学びます。 また、臨床実習前評価を行うことにより、臨床で応用できる知識や技術が身についているか評価します。
到達目標	(1) 患者を意識した身だしなみ及び接遇に配慮することができる。 (2) 主要な医療面接及び身体診察ができる。 (3) 一定の時間内で主訴に応じたあん摩の総合的全身施術ができる。 (4) 物療機器を安全に取り扱うことができる。 (5) あマ指施術に関わる衛生管理及びリスク管理ができる。

授業計画

前期計　（ 15週）	前期計 60時間
1.1年次の復習	35
2.分野別の治療法	20
(1) 健康医学分野	
(2) 産業医学分野	
(3) スポーツ医学分野	
(4) 老年医学分野	
3.臨床実習前試験等	5

後期計　（ 15週）	後期計　60時間
4.日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術	39
(1) 運動器系（肩こり、頸肩腕痛、腰下肢痛、肩・膝の関節痛）	
(2) 呼吸器・循環器系（咳嗽、高血圧症）	
(3) 消化器系（胃炎、便秘・下痢）	
(4) 婦人科系（月経異常、更年期障害）、その他	
(5) 臨床実習前試験等	5
5.模擬臨床実習	12
6.総まとめ	4

実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師
	病院・治療院での施術経験を生かして、リスク管理のもと安全で効果的な、患者さんに合わせた施術ができるよう指導します。	
成績評価の方法	前期末・後期末評価に加えて、臨床前評価も含めた平均点を学年末評価とします。	
履修上の留意点	リスク管理、衛生管理、患者への対応、診察の進め方、適否の判断については全ての授業の中で身に着けて行きましょう。 6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。	

神戸センター

自己学習の進め方	授業時間内での練習が主となりますが、学習した基本手技については、授業以外の時間帯にも反復継続して訓練して下さい。正確な手技や体位で行うことに注意し、技能の向上を図るように努めてください また、全身あん摩を所定の時間内でできるよう術式を組み立てられるようにしてください。
使用教科書	なし
参考書/参考資料	

令和7年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あマ指圧応用Ⅱ（臨床前評価を含む）
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	2年
担当教官名	木村　秀伯
修得単位数	2単位
年間授業時数	60時間
授業の方法	実技
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に実践できる能力と態度を養います。また、臨床実習前に臨床前試験等を行い、円滑に臨床実習が開始できるようにします。
到達目標	(1) 患者を意識した身だしなみ及び接遇に配慮することができる。 (2) 主要な医療面接及び身体診察ができる。 (3) 症状に応じて、あマ指施術の手技を選択し施術ができる。 (4) あマ指施術に関わる衛生管理及びリスク管理ができる。

授業計画		
	前期計　（　１５　週　）	前期計　30時間
	１．あマ指基礎復習	4
	２．臨床入門	5
	①リスク管理　②患者への対応	
	③診察の進め方　④適否の判定□	
	３．各種体操と運動療法	5
	①肩こり体操　②五十肩体操	
	③棒体操　④その他の治療体操（健康十巧など）	
	４．各種手技療法	5
	①オイルマッサージ　②その他の手技療法	
	５．理学的検査法（頸肩腕通・上肢の関節痛）	8
	６．臨床実習前試験等	3
	後期計　（　１５　週　）	後期計 30時間
	１．各種体操と運動療法	5
	①腰痛体操　②大腿四頭筋筋力強化訓練	
	２．各種手技療法	5
	①推拿　②関節モビリゼーション	
	３．施術に応用する物理療法	2
	①温熱療法　②電気療法	
	４．介護予防・機能訓練指導に必要な知識と技術	3
	①運動機能評価□②包括的高齢者運動トレーニング	
	③介護に必要な基礎的事項	
	５．理学的検査法（腰下肢痛・下肢の関節痛）	8
	６．臨床実習前試験等	4
	７．臨床実習入門	3

実務経験の有無 その活かし方	無
成績評価の方法	前期末・後期末評価に加えて、臨床前評価も含めた平均点を学年末評価とします（小数点以下は切り捨て）。なお、中間期にはそれぞれの到達度を確認するための形成的評価を実施します。
履修上の留意点	自身の健康管理に留意して身体や白衣を清潔にし、衛生管理に留意してください。クラスメートを患者想定として練習しますので、臨床家を目指す者として他者へ敬意を払う態度で取り組んでください。
自己学習の進め方	授業時間内での練習が主となりますが、学習した基本手技については、授業以外の時間帯にも反復継続して練習してください。正確な手技や体位で行うことに注意し、技能の向上を図るように努めてください。
使用教科書	なし
参考書/参考資料	必要に応じて配布します

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はき応用実習Ⅰ(臨床実習前施術実技試験等を含む)
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	２年
担当教官名	佐藤智紀、米田裕和
修得単位数	４単位
年間授業時数	120時間
授業の方法	実技
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を学習します。
到達目標	(1) 患者を意識した身だしなみ及び接遇に配慮することができる。 (2) 主要な医療面接及び身体診察（現代医学的診察を中心に）ができる。 (3) 病態に応じた選穴・配穴・取穴ができる。 (4) 一定の時間内に症状に応じた総合的鍼灸施術（鍼施術を中心に）ができる。 (5) 鍼灸施術に関わる衛生管理及びリスク管理ができる。

授業計画		
	前期計　（　15　週　）	前期計　60時間
	１．基礎実技（直刺・斜刺・横刺、現行17手技）	10
	２．西洋医学的診察法に基づいた鍼灸施術	
	(1)骨盤と腰仙・仙腸関節	8
	(2)背腰部	8
	(3)下腿と足関節	6
	(4)膝関節	5
	(5)肩関節	4
	(6)前腕と手関節	5
	(7)頭頸部	5
	３．臨床入門(臨床実習前施術実技試験への対応を含む)	
	(1)衛生リスク管理、患者への対応 、　(2)身体診察（触察、知覚検査等）	5
	前期のまとめ	4
	後期計　（　15　週　）	後期計 60時間
	４．分野別の治療法	4
	５．特殊鍼法(小児鍼法、皮内鍼法、灸頭鍼法)	6
	６．日常遭遇しやすい主な疾患や症状に対する診察と施術	
	(1)運動器系(肩こり、頸肩腕痛、腰下肢痛、肩・膝の関節痛など)	12
	(2)呼吸器・循環器系(咳嗽、高血圧症など)	6
	(3)消化器系(胃炎、便秘、下痢など)	6
	(4)婦人科系(月経異常、更年期障害など)	7
	７．低周波鍼通電療法	10
	８．臨床入門(臨床実習前施術実技試験への対応を含む)	5
	(1)診察の進め方、　(2)適応の判定	
	(3)診察から治療の流れ（医療面接、身体診察、治療等）	
	後期のまとめ	4

実務経験の有無 その活かし方	無

神戸センター

成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期、後期期末に実技試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします。期末試験においては、刺鍼・施灸技術、診察・施術の流れ、施術部位の取穴法、衛生リスク管理、患者への対応等について評価します。また、臨床実習前施術実技試験の内容を成績に加味します。
履修上の留意点	実技室以外では鍼や灸は扱わないでください。 臨床実習を想定した実技を行いますので、タオルワークや触れ方にも十分注意を払ってください。
自己学習の進め方	解剖学、経絡経穴概論、東洋医学概論、臨床医学総論、理療臨床医学各論の内容が含まれるため、事前に取穴法や診察に関連する内容の復習をして実習に臨んでください。
使用教科書	鍼灸実技　オリエンス研究会編
参考書/参考資料	新版　経絡経穴概論、人体の構造の機能（解剖学）

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう応用実習Ⅱ（臨床実習前施術実技試験等を含む）
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	2年
担当教官名	森定真
修得単位数	2単位
年間授業時数	60時間
授業の方法	実技
科目の概要 (授業科目の内容)	臨床実習に向けて、灸のリスク・適応などを学び、実践に近い形で灸の適応となる疾患の鑑別方法や様々な灸法と選穴などを学び、安全かつ的確な施術が出来る能力を身に付けます。また患者への接遇やインフォームドコンセントなどやベッドサイドの配慮事項などの総合力の獲得を目指します。
到達目標	(1) 患者を意識した身だしなみ及び接遇に配慮することができる。 (2) 主要な医療面接及び身体診察（東洋医学的診察を中心に）ができる。 (3) 病状に応じた選穴・配穴・取穴ができる。 (4) 一定の時間内に症状に応じた総合的鍼灸施術（灸施術を中心に）ができる。 (5) 鍼灸施術に関わる衛生管理及びリスク管理ができる。

授業計画

前期計　（　15　週　）	前期計　30時間
１　施術への導入（オリエンテーションを含む）	4
施術室の管理・施術用具の知識と取り扱い	
衛生管理・リスク管理	
２　施灸の基礎	3
艾の鑑別、線香の取り扱いと艾炷への点火	
３　基本的施灸法及び特殊灸法	10
知熱灸・透熱灸、隔物灸、温灸器具を用いた灸法	
４　身体各部・主な経穴への施灸	10
５　臨床実習前施術実技試験	2
６　評価のフィードバック	1

後期計　（　15　週　）	後期計 30時間
７　主な症候・疾患に対する診察と施術（施灸による全身調整法を含む）	15
８　臨床入門	11
リスク・衛生管理	
患者への対応、診察の進め方	
適否の判定	
９　臨床実習前施術実技試験	3
10　評価のフィードバック	1
施灸時の接遇	
声掛けを含むベッドサイドでの接遇について	
※視覚障害者の施灸に関してより高い水準で安全性と実効性を念頭におき創意・工夫し、利用者個々の特性に合った補助具などを使用するなどの配慮に留意する	

実務経験の有無 その活かし方	無
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年２回の総括的評価の平均点もって年間評価とします。（小数点以下は切り捨て）なお、中間期には形成的評価を実施します。

神戸センター

履修上の留意点	身体や白衣を清潔に保ち衛生管理に留意します。施術に対してお互いに敬意を払う態度で取り組みます。火傷のリスクが高いので火気の取り扱いには十分に留意します。
自己学習の進め方	この実習で身につける知識・技術には、解剖学や経絡経穴概論で履修する学習内容も含まれており、関連する事項については授業中に解説を行い、次の実習までに復習して下さい。授業時間外において、各自が人体施灸の練習する場合は、教官立ち合いの元で行うようにし、実習中に説明した注意事項を十分に守り、実習で習得した範囲内で練習に励んで下さい。
使用教科書	鍼灸実技　基礎と臨床　オリエンス研究会編
参考書/参考資料	はりきゅう基礎実習Ⅰ　教官用指導マニュアル

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	衛生学・公衆衛生学	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	米田　裕和	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な健康の保持、衛生学の基礎について学び、過去からの変遷、現在の課題などについても考えます。	
到達目標	１．現在の生活習慣病の特徴を理解し、その対策法を説明できるようになる。 ２．主な感染症の特徴と対策を理解し、説明できるようになる。 ３．理療における消毒法を理解し、実施できるようになる。 ４．その他の現在の我が国の衛生・公衆衛生の現状と問題点を理解し、説明できるようになる。	
授業計画	前期計　（　15週　）	前期計　30時間
	オリエンテーション	1
	１．公衆衛生の意義	1
	２．健康の保持と増進	6
	３．生活環境と公害	10
	４．産業保健	4
	５．精神保健	4
	６．母子保健	4
	後期計　（　15週　）	後期計 30時間
	７．生活習慣病と老人保健	6
	８．感染症対策	6
	９．消毒法	6
	１０．疫学	6
	１１．衛生統計と人口統計	6
実務経験の有無 その活かし方	無	

神戸センター

成績評価の方法	理療教育実施細則24に基づき、各学期末に行われる期末試験（筆記試験）の平均点（小数点以下、切り捨て）を学年末評価とします。他に中間試験を各学期内に1回行いますが、これは形成的評価として学年末評価には含めません。 なお、筆記試験の形式は四肢択一式及び記述式とします。
履修上の留意点	学年末成績が50点以上（59点未満）の場合のみ、理療教育実施細則の規定により補習を行った上で再評価試験を行います。 やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は理療教育実施細則の規定より欠席扱いとなりますが、30分未満でも積極的な授業参加を期待します。
自己学習の進め方	毎回の授業の復習に重点を置き、受けた授業の内容を振り返るとともに、単元ごとに練習問題を行ってください。 予習は、次回行う範囲の教科書に目をとおしておいてください。
使用教科書	疾病の成り立ちと予防Ⅰ　衛生・公衆衛生学（改訂第10版）、高橋昌巳・一幡良利・薩田清明著/理教練教科書委員会編、桜雲会、2025年
参考書/参考資料	東洋療法学校協会編教科書 衛生学・公衆衛生学 第2版、東洋療法学校協会編/浜崎景・姫野誠一郎・出嶋靖志・笹澤吉明著、2005年

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床医学各論
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	３年
担当教官名	米田　裕和
修得単位数	３単位
年間授業時数	90時間
授業の方法	講義
科目の概要 (授業科目の内容)	各疾患の概念、病態生理、原因、症状、検査、治療、予後について学習します。
到達目標	１．各疾患の概要や診断および治療に関する基礎的知識が説明できる。 ２．病態から疾患を判断し、実際の臨床に生かすことができる。

授業計画

前期計　（　15週　）	前期計　45時間
１．オリエンテーション	1
２．循環器疾患	6
３．呼吸器疾患	7
４．消化器疾患	10
５．代謝・栄養疾患	6
６．内分泌疾患	6
７．腎泌尿器疾患	6
８．中間試験	1
９．前期のまとめ	2

後期計　（　15週　）	後期計 45時間
１０．男性生殖器疾患	3
１１．婦人科疾患	6
１２．血液・造血器疾患	6
１３．アレルギー・免疫異常	6
１４．耳鼻咽喉科疾患	5
１５．眼科疾患	5
１６．皮膚科疾患	5
１７．感染症	5
１８．中間試験	1
１９．後期のまとめ	3

実務経験の有無 その活かし方	無
成績評価の方法	理療教育実施細則24、神戸視力障害センター評価及び試験実施規定6に基づき、前期・後期の中間・期末に総括評価（筆記試験）を行い、平均点（小数点以下、切り捨て）を学年末評価とします。 なお、筆記試験の形式は四肢択一式及び記述式とします。

神戸センター

履修上の留意点	学年末成績が50点以上（59点未満）の場合のみ、理療教育実施細則の規定により補習を行った上で再評価試験を行います。 やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は理療教育実施細則の規定より欠席扱いとなりますが、30分未満でも積極的な授業参加を期待します。
自己学習の進め方	臨床でよく遭遇しやすい疾患を中心に、過去の国家試験の頻出ポイントに重点を置いて授業を進めます。 解剖・生理の知識から病態生理を理解して疾患を捉えてください。 あはき臨床で必要となる知識についても紹介します。 疾患の知識を理解するためには正常な人体の構造と機能を理解する必要があります。そのために解剖学と生理学の内容を教科書で復習してください。 また、検査や治療に関する知識は、臨床医学総論の教科書も参考にして学習してください。
使用教科書	生活と疾病Ⅲ（臨床医学各論）第5版、河村公志郎他6名/日本理療科教員連盟理療教科用図書編纂委員会、日本ライトハウス、2022年
参考書/参考資料	人体の構造と機能 解剖学 第2版、盲学校理療教科用図書編纂委員会編/河野邦雄他著、医歯薬出版、2023年 人体の構造と機能 生理学 第3版、盲学校理療教科用図書編纂委員会編/内田さえ他著、医歯薬出版、2021年

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	リハビリテーション医学	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	佐藤　智紀	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義・実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	リハビリテーションの理念と方法、各疾患のリハビリテーション、運動の仕組みについて学びます。	
到達目標	リハビリテーションの理念や方法などを理解することで、その考え方や方法を臨床に応用・実践することができるようになる。	
授業計画	前期計　（　15　週　）	前期計　30時間
	オリエンテーション	1
	１．リハビリテーション総説 （１）リハビリテーションと障害 （２）リハビリテーション医学と医療	8
	２．障害の評価と治療 （１）障害の評価 （２）障害の治療	20
	※前期中間評価	1
	後期計　（　15　週　）	後期計 30時間
	３．各疾患のリハビリテーション （１）脳卒中、（２）脊髄損傷、（３）脳性麻痺と小児疾患、（４）切断、（５）骨関節疾患、（６）末梢神経障害、（７）関節リウマチ、（８）パーキンソン病、（９）呼吸器疾患、（１０）心疾患	24
	４．運動の仕組みと身体の機能	5
	※後期中間評価	1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします、（小数点第一位は切り捨て） 前期・後期の中間期に形成的評価として中間試験を実施します。	
履修上の留意点	解剖学、生理学、臨床医学総論、理療臨床医学各論の知識が必要です。他科目との関連性を意識してください。	
自己学習の進め方	授業の進行に合わせて１・２年で学習した内容（解剖学や生理学など）を復習してください。 他科目と関連する部分がとても多いため、自学自習でわからない点が出たときはそのままにせず、すぐに解決するようにしてください。	
使用教科書	生活と疾病ＩＡ（概論編）、ＩＢ（基礎運動学編）	
参考書/参考資料		

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	医療概論（社会保障制度および職業倫理を含む）	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	３年	
担当教官名	橋本拓也	
修得単位数	２単位	
年間授業時数	３０時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	社会保障制度ならびに医療制度および職業倫理ついての基礎的知識を学びます。	
到達目標	１．社会保障制度について説明できる。 ２．医療制度について説明できる。 ３．生命倫理および職業倫理について説明できる。	
授業計画	前期計　（　15　週　）	前期計　15時間
	１．オリエンテーション ２．医学と医療 （１）現代の医学と医療 （２）社会保障制度 （３）現代の医学と医療の課題	1 2 8 4
	後期計　（　15　週　）	後期計 15時間
	３．生命倫理 （１）医の倫理(職業倫理) （２）ターミナルケア （３）自然死、尊厳死、安楽死 （４）臓器移植と脳死 （５）体外受精・人工妊娠中絶・胎児診断	 7 2 2 2 2
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、各学期末に行われる期末試験（筆記試験）の平均点（小数点以下は切り捨て）を学年末評価とします。他に中間試験を各学期内に1回行いますが、これは形成的評価として学年末評価には含めません。	
履修上の留意点	社会保障制度および職業倫理に関する指導は１単位相当とします。	
自己学習の進め方	常日頃社会保障制度や医療制度に関心をもち関連する情報に触れるよう心がけましょう。	
使用教科書	医療と社会　改訂８版　岡山ライトハウス	
参考書/参考資料	なし	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学臨床論
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	3年
担当教官名	森定真
修得単位数	5単位
年間授業時数	150時間
授業の方法	講義
科目の概要 (授業科目の内容)	臨床で遭遇する代表的な疾患に対して症状および所見から病態を把握し、疾患の鑑別と効果的な治療方法について理解を深めます。
到達目標	学習した内容を施術に応用する能力と態度を養い、科学的根拠のある医療、サービスの提供を実現することを目標とします。

授業計画

前期計　（１５週）	前期計７５時間
１．オリエンテーション	1
２．治療論（総論、治療原則）	10
３．症候別治療（肩こり、頸肩腕痛、肩関節痛、上肢痛、腰下肢痛、膝痛、運動麻痺、頭痛、顔面痛）	20
４．症候別治療（顔面麻痺、歯痛、眼精疲労、鼻閉、脱毛症、めまい、耳鳴り、咳嗽、喘息、胸痛、腹痛）	20
５．スポーツ医学と理療施術	12
６．国試対策（演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む）	12
７．中間試験	
８．期末試験	

後期計　（１５週）	後期計７５時間
９．症候別治療（悪心、便通異常、月経異常、排尿障害、インポテンツ、高血圧症）	25
１０．疾患別治療（低血圧症、食欲不振、肥満、発熱、のぼせと冷え、不眠、疲労と倦怠、発疹）	20
１１．高齢者に対する理療施術	5
１２．国試対策（演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む）	25
１３．中間試験	
１４．期末試験	

実務経験の有無 その活かし方	無
成績評価の方法	前期・後期とも、中間期と期末に試験を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）とします。
履修上の留意点	講義は教科書を基に資料を作成し、それを用いて講義を進めます。

神戸センター

自己学習の進め方	1.復習は配布資料を精読して、内容の理解に努めて下さい。理解できないところがあれば、教科書を調べ、それでも解決できなければ、次の講義までに担当教官に質問し確認して下さい。 2.受験対策として講義の最後に提示した確認問題は必ず解くようにしておいて下さい。学習の要点が分かり、講義への理解が深まります。
使用教科書	臨床理療学（理療臨床論）
参考書/参考資料	東洋医学臨床論（はりきゅう編及びあマ指編）

神戸センター

令和7年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床診察学
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	３年
担当教官名	木村　秀伯
修得単位数	１単位
年間授業時数	30時間
授業の方法	講義と実技の併用
科目の概要 (授業科目の内容)	身体診察の目的と手順を理解し、各種検査法のスキルを習得することで、患者の病態の推定や障害の程度を的確に把握できるようになることを目的とする授業です。
到達目標	1.身体診察の概要が理解できる。 2.主要な理学的検査法を手順どおり行うことができるようになる。 3.各検査法の意義が理解できる。

授業計画

前期計　（　１５　週　）	前期計　15時間
１．オリエンテーション	1
2.頚部の診察	3
3.肩関節の診察	3
4.肘の診察	2
5.手関節・手指の診察	2
6.反復練習・復習	4

後期計　（　１５　週　）	後期計 15時間
1.腰殿部の診察	3
2.股関節の診察	3
3.膝関節の診察	3
4.足関節の診察	2
5.反復練習・復習	4

実務経験の有無 その活かし方	無
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年２回の総括的評価の平均点もって年間評価とします（小数点以下は切り捨て）。なお、中間期にはそれぞれの到達度を確認するための形成的評価を実施します。
履修上の留意点	講義は教科書を基に資料を作成し、それを用いて講義を進めます。そのため、講義後は必ず配布資料を精読して復習し、内容の理解に努めて下さい。理解できないところがあれば、教科書を調べ、それでも解決できなければ、次の講義までに担当教官に質問し確認して下さい。
自己学習の進め方	この科目は、徒手検査のスキルの習得に重点を置いています。そのため授業時間外にも繰り返し学習することが必要となります。普段から復習を兼ねてトレーニングを行うようにしてください。また、理療臨床医学各論、解剖学等の内容も含まれるため、次の講義までに関連する事項について確認しておいて下さい。
使用教科書	なし
参考書/参考資料	必要に応じて配布します

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床取穴学（生体観察を含む）	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	森定真	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義（演習を含む）	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術を適切かつ効果的におこなうための取穴法、治療に必要な選穴法及び配穴法について学習します。	
到達目標	学習した内容を施術に応用する能力と態度を養い、科学的根拠のある医療、サービスの提供を実現することを目標とします。	
授業計画	前期計　（１５週）	前期計１５時間
	１．オリエンテーション	1
	２．触診総論（体表反応の変化を含む）	3
	３．筋骨の触診	3
	４．切診（背候診、腹診）	3
	５．国試対策（演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む）	5
	６．中間試験	
	７．期末試験	
	後期計　（１５週）	後期計１５時間
	８．切診（切経、原穴診、脈診、その他の要穴）	7
	９．国試対策（演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む）	8
	１０．中間試験	
	１１．期末試験	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期末、後期末に筆記試験と実技試験を行います。 各学期ごとの評価は筆記試験と実技試験を総合して算出します（評価割合：筆記試験30%、実技試験70%）。 学年末評価は、前期と後期の評価の平均とします。なお、中間期にはそれぞれの到達度を確認するための形成的評価を実施します。	
履修上の留意点	講義は教科書を基に資料を作成し、それを用いて講義を進めます。	

神戸センター

自己学習の進め方	この科目は、取穴スキルの習得に重点を置いています。そのため授業時間外に繰り返し学習することが必要となります。少なくとも週２回、１時間程度のトレーニングを行うようにしてください。また、解剖学、経絡経穴概論の内容も含まれるため、次の講義までに関連する事項について確認しておいて下さい。
使用教科書	経絡経穴概論　東洋療法学校協会編
参考書/参考資料	ボディ・ナビゲーション～触ってわかる身体解剖～　医道の日本社

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	地域理療と理療経営	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	３年	
担当教官名	橋本拓也	
修得単位数	２単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	この科目は、理療と関わる地域社会や法制度の動向に触れるとともに、理療経営に関する基礎知識について理解を深めます。また学習した内容で卒業後の就職先や開業に応用するための能力と教養が養われ、就労・社会復帰の実現の基礎となります。	
到達目標	施術者として必要な地域社会における理療の役割、医療・福祉のあり方、及び理療の経営に必要な知識について教授し、施術者並びに経営者としての能力と態度を修得することを目標とします。	
授業計画	前期計　（　15　週　）	前期計　30時間
	1. 地域社会と理療	5
	2. 少子高齢社会の現状と課題	5
	3. 社会保障制度の体系	10
	4. 理療業務と社会保険制度	10
	後期計　（　15　週　）	後期計 30時間
	5. 理療経営の基礎	10
	6. 理療経営の展開	10
	7. 理療と就労	10
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年２回の総括的評価の平均点もって年間評価とします（小数点以下は切り捨て）。なお、中間期にはそれぞれの到達度を確認するための形成的評価を実施します。	
履修上の留意点	地域に求められる理療師像を明確にするとともに、施術所経営に関しても必要なスキルを身につけてください。	
自己学習の進め方	講義は教科書を基にまた必要ならば資料を作成しそれを用いて進めます。そのため講義後は必ず教科書等を精読して復習し、内容の理解につとめてください。理解できないところがあれば、教科書を調べ、それでも解決できなければ、次の講義までに担当教官に質問し確認してください。	
使用教科書	地域理療と理療経営（社会鍼灸あん摩学序説）第5版	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します	

神戸センター

令和7年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧の歴史と理論
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	３年
担当教官名	木村　秀伯
修得単位数	2
年間授業時数	60
授業の方法	講義
科目の概要 (授業科目の内容)	手技療法を行うにあたり必要な技術や理論、あマ指の歴史等について学習します。
到達目標	手技に関する理論を説明できるようにします。また、主義に関する理論を治療に応用できるようにします。

授業計画

前期計　（　１５週　）	前期計　30時間
１．あん摩の意義と歴史	2
２．あん摩の基本手技	8
３．古法あん摩	3
４．マッサージの意義と歴史	2
５．マッサージの基本手技	7
６．指圧の意義と歴史	2
７．指圧の基本手技	4
８．その他の関連する治療法	2

後期計　（　１５週　）	後期計 30時間
９．あん摩マッサージ指圧の臨床応用	5
１０．リスク管理	4
１１．治療的作用と生体反応	4
１２．あん摩マッサージ指圧の基礎理論	10
１３．関連学説	7

実務経験の有無 その活かし方	無
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、各学期の期末に試験（筆記試験）を実施する。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）とする。なお、中間期にはそれぞれの到達度を確認するための形成的評価を実施する。
履修上の留意点	あん摩マッサージ指圧理論の項目の中には日々進歩していく内容のものもあります。そのつど説明しますが、疑問に思うことは、インターネットなどで調べてみてください。理解しにくい時には担当教官に質問してください。
自己学習の進め方	復習しながら知識の整理を行いますが、配布した資料を基に知識を整理しておくようにしてください。わからないことがあればインターネットなどで調べたり、それでも分からない時には担当教官に質問するようにして理解するようにしましょう。
使用教科書	基礎保健理療２(保健理療理論)　日本ライトハウス
参考書/参考資料	東洋療法学校協会 あん摩マッサージ指圧理論第3版

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅうの歴史と理論	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	森定真	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	鍼灸医学の最新の基礎・臨床研究の成果について触れ、鍼灸の作用機序について理解を深めます。また学習した内容を施術に応用する能力と態度を養い、科学的根拠のある医療、サービスの提供を実現することを目標とします。	
到達目標	学習した内容を施術に応用する能力と態度を養い、科学的根拠のある医療、サービスの提供を実現することを目標とします。	
授業計画	前期計　（１５週）	前期計３０時間
	１．オリエンテーション	1
	２．鍼の基礎知識	3
	３．刺鍼の方式と術式	3
	４．特殊鍼法	2
	５．灸の基礎知識	2
	６．灸法の種類	3
	７．鍼灸の臨床応用	3
	８．リスク管理	4
	９．鍼灸治効の基礎	4
	１０．国試対策（演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む）	5
	１１．中間試験	
	１２．期末試験	
	後期計　（１５週）	後期計３０時間
	１３．鍼灸治効の基礎	6
	１４．鍼灸施術の一般治効理論	8
	１５．関連学説	6
	１６．国試対策（演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む）	10
	１７．中間試験	
	１８．期末試験	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	各学期末に行われる期末試験（筆記試験）の平均点（小数点以下は切り捨て）を学年末評価とします。他に中間試験を各学期内に1回行いますが、これは形成的評価として学年末評価には含めません。	
履修上の留意点	講義は教科書を基に資料を作成し、それを用いて講義を進めます。	

神戸センター

自己学習の進め方	1.復習は配布資料を精読して、内容の理解に努めて下さい。理解できないところがあれば、教科書を調べ、それでも解決できなければ、次の講義までに担当教官に質問し確認して下さい。 2.受験対策として講義の最後に提示した確認問題は必ず解くようにしておいて下さい。学習の要点が分かり、講義への理解が深まります。
使用教科書	基礎理療学Ⅲ（オリエンス研究会編）
参考書/参考資料	はりきゅう理論　東洋療法学校協会編

神戸センター

令和7年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あマ指臨床実習Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	３年	
担当教官名	木村　秀伯	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	外部からの実習協力者への施術を通して、施術者として必要なあん摩マッサージ指圧施術の知識、技術を高めるとともに、適切なコミュニケーション能力を養い、安全で効果的な施術法を学びます。	
到達目標	１．設備・備品の管理、清潔の保持ができる。 ２．他の科目で学習した知識、技術を活用し効果的な施術ができる。 ３．リスク管理が適切に行える。 ４．カルテ作成により実習のまとめができる。	
授業計画	前期計　（　１５　週　）	前期計　45時間
	（前期内容） 臨床実習 １．利用者の習熟に合わせて、教官指導の下、再診の施術協力者の医療面接を実施することにより、病態の把握方法、治療計画について習得する。 ２．施術内容を適切にカルテに記録する。	45
	後期計　（　１５　週　）	後期計 45時間
	（後期内容） 臨床実習 １．利用者の習熟に合わせて、教官指導の下、再診の施術協力者の医療面接を実施することにより、病態の把握方法、治療計画について習得する。 ２．施術内容を適切にカルテに記録する。	45
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	観察記録を基に各学期の中間期、期末期に評価を行います。理療教育実施細則に基づき、前期・後期末評価の平均点を本科目の学年末評価とします。	
履修上の留意点	自身の健康管理に留意するとともに、身体や白衣を清潔に保ちましょう。 リスク管理のためささいなことでも困りごとが発生したら担当教官に協力を申し出て下さい。	
自己学習の進め方	事前にカルテを読み、患者の病態について把握しておいて下さい。 施術後の経過を確認し、施術効果について考察して下さい。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あマ指臨床実習Ⅱ
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程
対象クラス	３年
担当教官名	藤井　徹
修得単位数	2単位
年間授業時数	60時間
授業の方法	実技
科目の概要 (授業科目の内容)	外部からの実習協力者への施術を通して、施術者として必要なあん摩マッサージ指圧施術の知識、技術を高めるとともに、適切なコミュニケーション能力を養い、安全で効果的な施術法を学びます。
到達目標	１．設備・備品の管理、清潔の保持ができる。 ２．他の科目で学習した知識、技術を活用し効果的な施術ができる。 ３．リスク管理が適切に行える。 ４．カルテ作成により実習のまとめができる。

授業計画		
	前期計　（　１５　週　）	前期計　30時間
	（前期内容） 臨床実習 １．利用者の習熟に合わせて、教官指導の下、再診の施術協力者の医療面接を実施することにより、病態の把握方法、治療計画について習得する。 ２．施術内容を適切にカルテに記録する。	30
	後期計　（　１５　週　）	後期計 30時間
	（後期内容） 臨床実習 １．利用者の習熟に合わせて、教官指導の下、再診の施術協力者の医療面接を実施することにより、病態の把握方法、治療計画について習得する。 ２．施術内容を適切にカルテに記録する。	30

実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	観察記録を基に各学期の中間期、期末期に評価を行います。理療教育実施細則に基づき、前期・後期末評価の平均点を本科目の学年末評価とします。	
履修上の留意点	自身の健康管理に留意するとともに、身体や白衣を清潔に保ちましょう。 リスク管理のためささいなことでも困りごとが発生したら担当教官に協力を申し出て下さい。	
自己学習の進め方	事前にカルテを読み、患者の病態について把握しておいて下さい。 施術後の経過を確認し、施術効果について考察して下さい。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

神戸センター

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はき臨床実習Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	３年	
担当教官名	佐藤智紀	
修得単位数	２単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実習	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要なはりきゅう臨床に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得します。	
到達目標	１．施術者として必要な心構えと態度を実践できる。 ２．医療面接や身体診察から病態把握や施術の適否鑑別ができる。 ３．施術における適切なリスク管理ができる。 ４．施術録を明瞭かつ客観的に記載できる。	
授業計画	前期計　（　15　週　）	前期計　45時間
	１．臨床ガイダンス (1) 施術者としての基本（施術者としての心得、患者への対応） (2) 設備や備品の管理と清潔の保持 (3) 消毒（施術器具の消毒、手指及び施術部位の消毒）	6
	２．施術の実践 (1)教官とともに診察・評価し、教官の指導の下で施術する 主訴、症状を明らかにする。疾病の理解、施術の適否の判断 施術の説明と同意、症状に基づいた評価、治療目標、治療計画 (2)教官とともに施術後の評価を検討する 施術後の評価と検討 (3)施術後、施術録を作成し、指導と助言を受ける。 適切な施術録の作成	39
	後期計　（　15　週　）	後期計 45時間
	３．施術の実践 (1)教官とともに診察・評価し、教官の指導の下で施術する 主訴、症状を明らかにする。疾病の理解、施術の適否の判断 施術の説明と同意、症状に基づいた評価、治療目標、治療計画 (2)教官とともに施術後の評価を検討する 施術後の評価と検討 (3)施術後、施術録を作成し、指導と助言を受ける。 適切な施術録の作成	45
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき前期、後期の各学期末に総括的評価を実施します。各期末成績の平均点をもって学年末の評価とします。	

神戸センター

履修上の留意点	施術者としての基本的態度や守秘義務等を遵守してください。臨床実習協力者の方へ実際に施術を行うため、衛生管理・リスク管理は常に心がけてください。
自己学習の進め方	解剖学、経絡経穴概論、東洋医学概論、臨床医学総論、理療臨床医学各論の内容が含まれるため、事前に取穴法や診察に関連する内容の復習をして実習に臨んでください。
使用教科書	なし
参考書/参考資料	新版　経絡経穴概論、人体の構造の機能（解剖学）

令和７年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はき臨床実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧､はり､きゅう科　専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	森定真	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実習	
科目の概要 (授業科目の内容)	教官指導のもとで、臨床実習協力者の症状・疾患の鑑別診断から治療までの一連の臨床スキルを身につけます。	
到達目標	チーム医療を実践できる医療関係者として必要な基本的心構えと態度（責任感、守秘義務、知識・技術の鍛練、礼儀作法（言葉づかい、身だしなみ、接遇態度など））を理解し、行動できる。教員の直接指導のもと、治療計画に応じた施術及び評価が適切に実施できる。鍼灸臨床の現場における衛生管理や、施術上の過誤・有害事象の防止及び生じた際の適切な対処について理解・実践ができる。総合的に治療院等の運営ができるようになることを目標とします。	
授業計画	前期計　（　15　週　）	前期計　45時間
	臨床実習 １．はり師きゅう師の実技指導の一環として、教官の指導の下、臨床実習協力者に対して診察手順、施術方法、待遇の仕方等を臨床経験に合わせて実施します。そのことで技術の習得と施術者としての心構えを養います。 ２．実習の記録を適切にカルテに記録します。	45
	後期計　（　15　週　）	後期計 45時間
	臨床実習 １．はり師きゅう師の実技指導の一環として、教官の指導の下、臨床実習協力者に対して診察手順、施術方法、待遇の仕方等を臨床経験に合わせて実施します。そのことで技術の習得と施術者としての心構えを養います。 ２．実習の記録を適切にカルテに記録します。 ３．利用者からの希望と施術協力者の同意により継続治療を実施します。	45
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	別途配布する『評価基準』に基づき、担当教官が学期末に評価を行い、その平均点（小数点以下切捨て）をもって期末評価とします。また前期・後期の中頃に各１度ずつ形成的評価も行います（小数点第１位は切り捨て）。	
履修上の留意点	１．理療師として必要な基本的態度や心得（守秘義務等）を守ります。２．各種治療技術・	

神戸センター

自己学習の進め方	実習者は実習の当日までに担当する患者様のカルテを確認し、担当教官と相談しながら治療
使用教科書	–
参考書/参考資料	「臨床実習マニュアル」「実習生心得」を配布します。